

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名:「食・農・地域」を紡ぐ次世代育成プロジェクト

2 実施団体:株式会社マルイ

3 担当課:美作広域農業普及指導センター

4 事業概要

弊社は「うまいものなら何でもマルイ＝うまいものセンター」の創業の精神で多くの皆様に食品を提供している。

弊社の食育事業では、日々の生活に寄り添いながら、地域のお客様の毎日を預かるスーパーマーケットとして、お客様一人一人にあった食生活に向けた情報発信や商品、サービスの創出、体験企画の運営を行っている。食育事業を通じたコミュニケーションにより、「地域の豊かで楽しい食卓」の実現を目指し、地域に豊かさと活力を提供できるよう地域社会の一員として、ともに考え、行動している。

その中で美作地域では、小麦やしょうがなど多彩な食材が生産されているが県内での認知度あまり高くないことが課題となっている。しっかりと周知徹底のお役立ちをしたいと考えている。

5 実施内容

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年1月	2月	3月
(トピックス)	●第1回料理教室 開催		●レシピコンテスト 校内募集		●レシピコンテスト 最終審査会		●第2回料理教室 開催	●第3回料理教室 開催	
(山重高校)	●津山産小麦 出張授業	●小麦配布 レシピ考案	●コンテスト 校内募集開始		●農場バス見学 参加				
(マルイ)	●第1回料理教室 開催 実施	●コンテスト 校内募集		●コンテスト 校内募集	●第2回料理教室 開催 実施開始	●第2回料理教室 開催 実施		●オンラインで 商品開発 ●レシピ共有 ●倉庫マージン 削減 実施	



圃場見学の様子(JAつやま様)



圃場見学の様子(AKファーム様)



圃場見学の様子(つやま和牛畜舎)

企画フロー

圃場見学の様子(JAつやま様)

圃場見学の様子(AKファーム様)

圃場見学の様子(つやま和牛畜舎)



レシピコンテストの様子①



レシピコンテストの様子②



料理教室の告知



料理教室の様子

※進行内容/企画詳細は別添資料をご確認ください。

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

成果①津山産小麦の理解促進

津山東高校様との連携により、津山産小麦を知るところから、レシピを作成する実践という流れで生徒様には理解/関心が進んだと考える。

また、製粉後の小麦だけではなく小麦の播種から製粉後に発生する粃殻を飼料として活用するといった小麦の活かし方を生産者様方から直接お話を聞くことで地域農業についても併せて関心を抱くことができたと考える。

更に、当社実施の津山産小麦を使ったお菓子教室を開催。各回親子でご参加いただきお菓子作りをきっかけに津山産小麦認知の機会を創出し、認知浸透に繋がったと考える。

成果②グランプリ作品の商品化による地域間での認知浸透

レシピコンテスト最優秀賞を獲得した「焼きカレーパン」を日頃より津山産小麦を活用されている津山市内店舗様にて商品化いただき、2月16日(金)より販売開始している。

商品の味等は勿論だが、津山東高校の生徒が作成したカレーパンという口コミが学生間で広がっており来店にも繋がっているとのこと。

(2) 今後の課題

本事業のように若者世代への普及取組は継続していく必要がある。

高校生へ津山産小麦に関するアンケートを実施したが名称は知っているものの、一般の小麦との違い・店舗によって取り扱いに差があること等、十分な理解が進んでいるとは言い難い現状だった。

津山産小麦に対して知る機会が与えられていないことが認知/理解浸透に繋がると考える。

その為、継続した取組として高校との連携及び、商品化のように地域店舗様にもご協力いただき地域一体となって津山産小麦をはじめとした地域の食材を理解する機会を創出する必要がある。

7 県民局と連携した効果及び課題

11月に津山産小麦を理解する取組として実施した圃場見学では小麦生産者様を紹介いただき、津山産小麦に関連する内容を現場にて講義いただいた。

生徒様の満足度も高く、調理に携わる人間として実際の現場を見る機会があることはとても嬉しいという声が上がっており、前述のように継続して見学実施できれば良いと考える。

また、各生産者様からも農業人口の減少や若者世代へ農業をPRする為の接点づくりの場が少ない為、今回のような見学をきっかけに関心を持っていただけると嬉しい、というお声をいただいた。

圃場見学での体験の取組と、そこで得た知識をレシピという形に落とし込んでいく本事業のように、学びと実践を活かした取組を県民局様と連携していく必要がある。